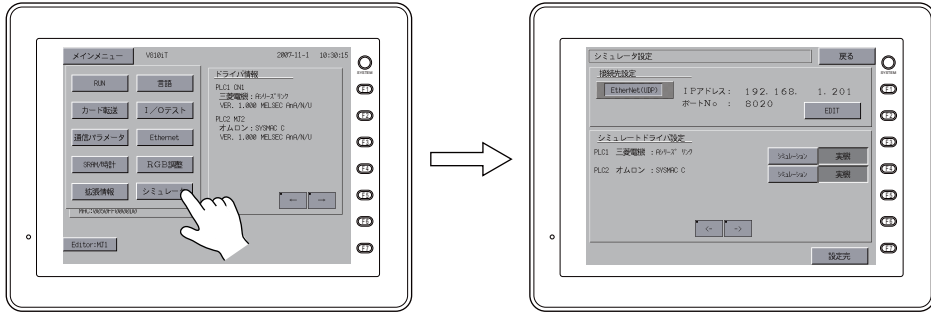


本体側の設定

シミュレータを使用する際、必ず本体側で「実機」（＝各機器）ではなく「シミュレータ」を使う、という設定を行います。手順は以下のとおりです。

1. データ転送後、本体の「メイン」画面上において「メインメニュー」スイッチを押し、「シミュレータ」スイッチを押します。

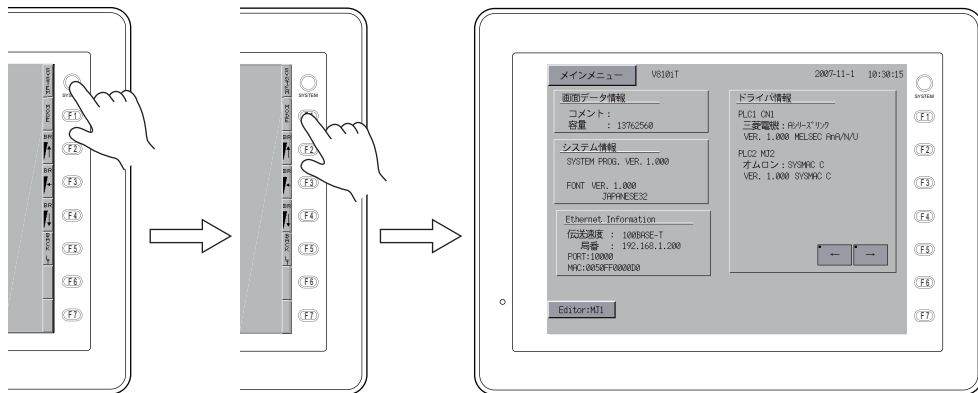


* 「シミュレータ」スイッチが出ない場合は、「シミュレータを使用する」チェックありで画面データを転送していない、もしくは転送が正しく終了していない可能性があります。確認し、再度画面転送してください。



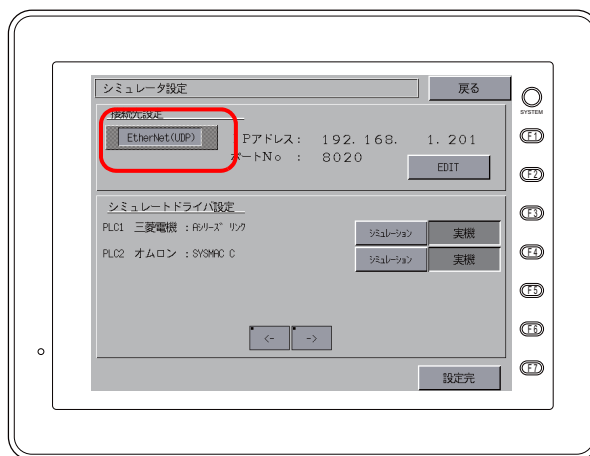
「メイン画面」を表示するには

ファンクションスイッチの「SYSTEM」キーを押して、メニューが表示されたら「F1」キーを押すと、「メイン画面」に変わります。



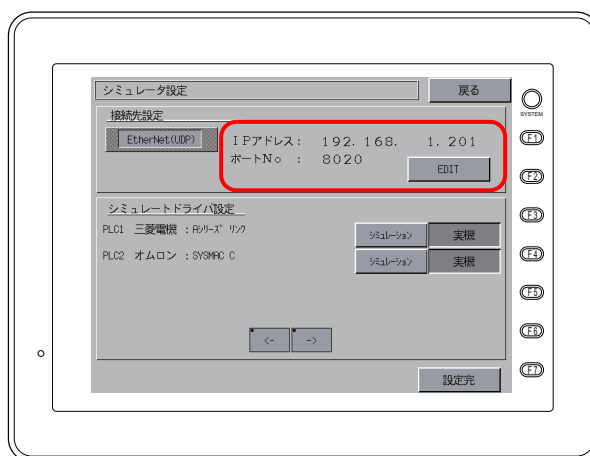
「SYSTEM」キーまたは「F1」キーを押しても何も変化がない場合、それぞれのスイッチを禁止にしている、または一定時間押さないと有効にならない設定が効いている可能性があります。詳しくは『V8シリーズハード仕様書』の「ファンクションスイッチ」に関する章を参照してください。

2. [シミュレータ設定] 画面が表示されます。
[接続先設定] において、パソコンと本体を接続している通信方式と一致しているかどうか、確認します。



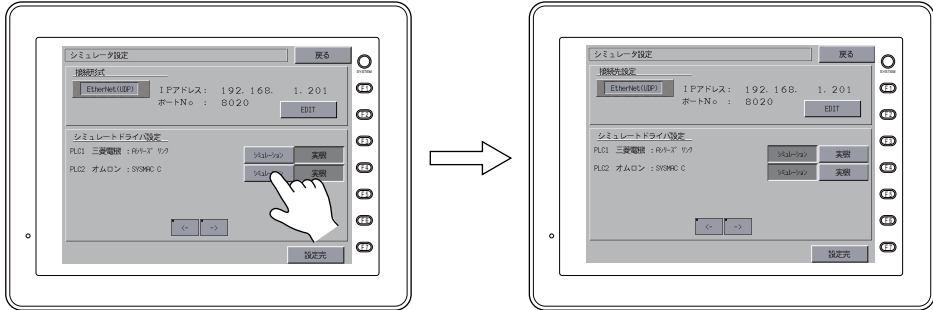
表示	意味
MJ1 (Serial)	本体側の MJ1 と PC を、V-CP で接続してシミュレータを使用します。
EtherNet (UDP)	本体側の LAN ポートと PC を、LAN ケーブルで接続してシミュレータを使用します。
USB-B (Device)	本体側の USB-B と PC の USB-A を、USB ケーブルで接続してシミュレータを使用します。

3. [接続先設定] が [EtherNet (UDP)] になっている場合は、[IP アドレス] と [ポート No.] の設定を行います。
[接続先設定] が [MJ1 (Serial)] または [USB-B (Device)] の場合は、4. に進んでください。



IP アドレス	接続先のパソコンの IP アドレスを設定します。 右端の [EDIT] ボタンを押すとテンキースイッチが表示されるので、数値を入力します。 購入時のデフォルトは [192.168.1.201] です。
ポート No.	シミュレータ用のポート No. を設定します。右端の [EDIT] ボタンを押すとテンキースイッチが表示されるので、数値を入力します。 このポート No. は、シミュレータ側の [ファイル] → [通信設定] → [ポート No.] と合わせます。デフォルトは [8020] です。

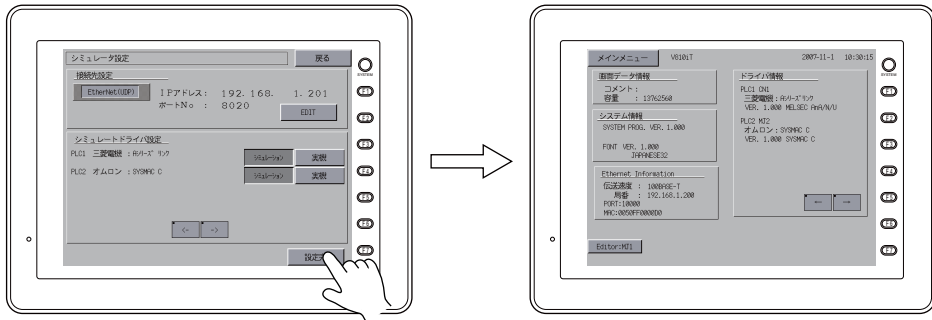
4. 次に、[シミュレートドライバ設定]において、どの機器の通信の代わりにシミュレータを使用するか、設定します。
 論理ポート (PLC1 ~ PLC8) の機器名が表示され、右側にそれぞれ [シミュレーション] スイッチと [実機] スイッチが並びます。シミュレータで動かす機器について、[シミュレーション] スイッチを押します。



例えば PLC1、PLC2 共にシミュレータを使う場合は、どちらも [シミュレータ] スイッチを押します

😊 シミュレータを使わない場合は、[実機] スイッチを押します。
 画面データを転送し直す必要はありません。

5. [設定完] スイッチを押して、[メイン画面] に戻ります。



😊 [シミュレータプログラム] のバージョンを確認するには
 [メインメニュー] → [拡張情報] スイッチを押します。
 [拡張プログラム情報] 画面になります。
 ここで [シミュレータプログラム] のバージョンとプログラムの種類 (SERIAL/ETHERNET/USB) が確認できます。